

編集後記

例年より2週間遅れて桜も咲き、ようやく春になった東京です。しかし、北海道や北陸はまだ残雪もひどいとのこと、今年の冬は全くうんざりでした。

さて、今月の特集は“評価”をテーマとして、impairment のレベルで上肢、下肢をそれぞれ長尾氏と博田氏に、また disability のレベルで ADL に関して安藤氏他に御執筆いただきました。従来の評価法に up-to-date のものをあわせ、種々の問題点や今後の動向にまで言及していただきました。

野村氏は handicap のレベルを生活環境の面から解説して下さい。日本リハビリテーション医学会主催の卒後研修会で多くの方々より、野村氏にこのようなテーマで氏の日頃の philosophy も含めて書いていただきたいという要望もあり、今回実現したものです。

研究と報告では阪本氏他の脳卒中の予後調査と須賀氏他の腰椎装具療法で、いずれも古くて新しいテーマであり、この分野の研究のうつりかわりを知る貴重なデータでもあります。

講座はひきつづき運動療法と人類遺伝学に関するものです。

じっくりお読み下さい。

なお、巻頭言は、今年度の日本リハビリテーション医学会の野島会長が「氾濫の時代」と題してお寄せ下さったものです。氏の長年にわたる障害児のリハビリテーションをとおり、我が国の障害児教育はいまだ発展途上国にあることを指摘されました。リハビリテーションが医学と社会の接点にあり、我が国のリハビリテーション医療はとかく高齢化社会へ目を向けすぎる傾向にあります。この巻頭言をよんで、障害児に対するアプローチも我々リハビリテーション医療従事者の将来の大きな課題であると痛感したのは、筆者だけではないでしょう。

最近投稿原稿も増え、編集者一同嬉しいひめいをあげておりますが、よいペーパーはできるだけはやく雑誌にのるようにしております。どしどし御投稿下さい。

(千野 直一)

次号予告(第12巻 第6号)

特集 冠動脈疾患のリハビリテーション

冠動脈疾患危険因子と運動負荷の効果……………埼玉医大 土 肥 豊
心筋梗塞症患者急性期のリハビリ

テーション……………国立循環器病センター 斉 藤 宗 靖
心筋梗塞慢性期のリハビリテーション:

運動処方とその実際……………ライフプランニングセンター 道 場 信 孝
心筋梗塞のリハビリテーションと

長期予後……………昭和大・第三内科 長谷川武志・他
冠動脈外科手術後の長期予後……………東京医歯大・胸部外科 岡 村 高 雄・他

巻頭言 心疾患のリハビリテーション……………東大 竹 内 馬 左 也
研究と報告 全介助者の自宅復帰条件と家族の意識……………耳原鳳病院 池 田 信 明・他

紹介 キンコム(筋訓練測定装置)の使用経験:
筋活動の解析を中心に……………山形大 直 島 茂 友・他

症例報告 運動器の障害を合併する脳卒中片麻痺:
手術治療の経験……………東京医歯大 山 本 晴 康・他

講座 運動療法とその背景
6. 運動療法と末梢神経……………国立身障リハセンター 初 山 泰 弘
リハ医のための人類遺伝学: 遺伝性骨・軟部系統疾患

6. 遺伝相談……………愛知コロニー 松 井 一 郎
一頁講座 人工関節 6. 股(2)……………慈恵医大 室 田 景 久

(編集頁の都合等により掲載が若干変更になることがあります。編集室)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
加 倉 井 周 一
賀 集 竹 子
河 邨 文 一 郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 田 玲 子
高 橋 勇
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 歆
橋 倉 一 裕
長 谷 川 恒 雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)